



青葉の森公園芸術文化ホール イベントレポート

当ホール主催の公演・講座の雰囲気みなさまに発信する「サポーターライターズ」の方によるレポートをお届けします。

EVENT REPORT

平成30年
2月12日[月・休]



写真/サポーター(カメラマン)
田邊 定行

能舞台 和洋 縦横無尽 ライブ

出演
能管・篠笛・田楽笛・リコーダー・角笛
一噌 幸弘
尺八 邦楽打楽器
辻本 好美 望月 太喜之丞
ギター タブラ
高木 潤一 吉見 征樹



青葉能のために設置される能舞台で、能楽笛方の一噌幸弘さん率いる和洋の公演がここ数年行われている。私も何度か見たが、主にクラシック音楽とのコラボだった。今回は、フラメンコギターやタブラ(インドの太鼓)なども加わりより自由闊達な、まさに「縦横無尽」なステージにパワーアップしていた。

古典からマイケルジャクソン、キングクリムゾンといったポップス、ロックへ、そして突然歌謡曲「天城越え」。一転してしみじみと「ふるさと」。ラストの一噌さんオリジナル曲「ふ・ふ・ふ」では、篠笛、田楽笛、リコーダーなど何種類もの笛を自由自在に操り、時には同時に2本、3本吹くという離れ技もあり、タブラや鼓とジャズセッションのような軽妙な掛け合いがエキサイティングであった。

松の絵の描かれた伝統的な能舞台でこのような先鋭的な音楽が奏でられるのはミスマッチかと思いきや全くそんなこととはなく、むしろしっくりくると言つてよい。それは、能が決して古臭い過去の芸能ではないということを示していると思う。それに、多くの能は幽霊や精霊など死者が主人公なので、ゾンビの登場するマイケルジャクソンの「スリラー」は非常にぴったりだった。

進行役の一噌さんはおやじギャグを織り交ぜたちよつととほけた語り口で、超絶技巧を駆使した演奏中の姿との落差が楽しい。尺八奏者の辻本好美さんは着物をアレンジしたモダンなドレスで登場、華があり素敵だった。

古典的な楽器からこのように自由な精神に溢れた創造的な音楽が生まれることを、多くの人に知って欲しいと思った。

アンコールはユーミンの「春よ、来い」。今年の冬は殊の外厳しい寒さが続いたので、まさに今の心境にぴったりの曲だった。帰りに寄った公園の梅園では、五分咲きの花が春を待っていた。

サポーター(ライターズ)伊藤 正子